令和３年９月１９日（日）、久喜市総合体育館武道場にて、型講習会が開催されました。

本州に迫っていた台風１４号の影響による前日までの荒天がなかったかのような、見事な秋晴れに恵まれた中での開催となりました。

今回は、審査会を念頭に置いた基本、型の講習として、岡崎主席師範並びに技術委員会の先生方にご指導いただきました。

武州北支部からは、技術委員を務められている黒岩支部長のご引率のもと、自分と小学６年生１名で参加させていただきました。

今回は白帯や小学校低学年の参加者も多かったことから、最初に正座の座り方や基本的な立ち方についてのご指導がありました。閉塞立ちから結び立ち、平行立ち、不動立ち、更にそこからの三戦立ちまでを繰り返し行い、その場にいる全員の立ち方がある程度の形になるまで、丁寧なご指導がありました。

続いて三戦立ちからの正拳中段突き、外受け、内受け、下段払いを行い、その後前蹴りを帯の横を持った形、十字を切った形、上段ガードの形の３種類で手を動かさないことを意識して行い、上段回し蹴りまでを行いました。

今回技術委員以外の黒帯の参加者がおられず、茶帯の自分が最前列に並んだため、ちょうど目の前で石島師範のお手本を拝見することができたのですが、板張りの床で難なく足を返して上段回し蹴りを蹴られており、自分も真似をしようとしましたが、床板に足がへばりついてしまい、どうにも足を返すことができませんでした。身体操作によって普通はできないことを可能とする高度な技術を目の当たりにすることができました。

続いて前屈蹴りの構えからの前蹴上げを行いました。通常は十字を切った形から行うものですが、今回は帯をしっかり持つことで、手で変にバランスをとったり体がぶれたりしないようにしながら行いました。

ここで、岡崎師範より、大山総帥は円形逆突きと前蹴上げを非常に重視されていたことを挙げられ、組手には使わないからと前蹴上げを行わない指導者の下ではその指導者以上の選手は育てられないこと、我々のレベルで大山総帥や廬山館長が重視されていることについて、それが必要かそうでないかの判断など出来ないこと、指導者がたとえ満足にできなくてもしっかり指導することで、選手は自分でその効果を理解するのだということをお話いただきました。

自らが技術をしっかり身に着けてそれを元に指導をしてくことが大前提だとは思いますが、それだけに囚われず、重要な稽古の位置づけを勝手に変えることなく続けていくことが重要であることが理解できました。

続いて移動稽古、参加者全体で太極その１、太極その３、平安その１を行い、休憩を挟んでそれぞれの帯に合わせて型のグループ稽古となりました。

自分は平安その５のグループに入り、蓮田支部の高橋先生のご指導を受けました。立ち方の微妙な違いや腰の切り方などに加え、裏技や分解の動きを交えて型に対する理解を深めながらの稽古を付けて頂き、大変勉強になりました。特に分解については自宅で相手がいない状況で稽古することが多かったため、相手の手の位置、体の位置と、それに対して自分がどう動くのかが実際に体験できたことは、今後の稽古にも大変役に立つものとなりました。

その後グループごとに岡崎師範の前で指導を受けた型の発表を行い、講習会は終了となりました。

最後になりましたが、ご指導いただきました岡崎主席師範並びに石島技術委員長、ご引率いただきました黒岩支部長をはじめ技術委員の先生方にお礼を申し上げます。

武州北支部一般部　栗原